

## バレイショ早掘栽培の2、3の考察

逢坂憲政・柳田雅芳・松田石松

(青森県畑作園芸試験場)

A Few Considerations on the Forcing Culture of the Potato

Norimasa OSAKA, Masayoshi YANAGIDA, and Iehimatsu MATSUDA

(Aomori Field Crops and Horticultural Experiment Station)

## 1 ま え が き

青森県において近年バレイショの早掘栽培が増えつつある。これは7月上中旬の収穫出荷により、価格的に有利に販売できること、また跡作に秋野菜を取り入れることで土地利用率高めることができることなどによる。昭和50年から52年にかけて早掘栽培の適品種と栽培方法に関する試験を実施したのでその結果を報告する。

## 2 試 験 方 法

## 1 マルチ栽培用適品種の選定試験

供試品種：男しゃく(標準), メークイン, ワセシロ

栽植密度：70cm×22cm, アール当り 649.4株

施肥量(kg/a)：N0.8(基肥)+0.3(追肥), P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>1.2, K<sub>2</sub>O 1.0, 堆肥 150

使用フィルム：0.02ミリ透明フィルム

## 2 催芽およびマルチ栽培に関する試験

供試品種, 栽植密度, 施肥量, 使用フィルムは1の試験に同じ。

催芽方法：浴光催芽法(ビニールハウス内にて30日間)

区の構成：①催芽マルチ区(催芽いものマルチ栽培)②催芽区(催芽いもの無マルチ栽培), ③マルチ区(無催芽いものマルチ栽培), ④無マルチ区(無催芽いもの)

表1 生育収量調査(50年, 51年, 2カ年平均)

| 項 目<br>品種名 | 萌芽期<br>(月・日) | 着 蕾 期<br>(月・日) | 開花期<br>(月・日) | a 当り総<br>薯重(kg) | 同 左<br>標準比(%) | a 当り上<br>薯重(kg) | 同 左<br>標準比(%) | a 当り大<br>薯重(kg) | 同 左<br>標準比(%) |
|------------|--------------|----------------|--------------|-----------------|---------------|-----------------|---------------|-----------------|---------------|
| ワセシロ       | 5.12         | 6.8            | 6.19         | 312.7           | 132           | 303.3           | 135           | 135.1           | 254           |
| メークイン      | 5.13         | 6.9            | 6.21         | 261.0           | 110           | 245.0           | 109           | 58.8            | 111           |
| 男しゃく(標)    | 5.14         | 6.9            | 6.24         | 237.2           | 100           | 225.1           | 100           | 53.1            | 100           |

注. 掘取月日, 昭和50年7月14日, 昭和51年7月15日。

## 2 催芽およびマルチ栽培に関する試験

いもの肥大に及ぼす催芽およびマルチの効果を検討した結果は図1のとおりである。

催芽マルチ区と催芽区を比較すると, 上いも重, 大

の無マルチ栽培)

## 3 ワセシロの栽培密度, 施肥量に関する試験

供試品種：ワセシロ

区の構成：①密植半肥区, ②密植標肥区, ③密植倍肥区, ④標植半肥区, ⑤標植標肥区, ⑥標植倍肥区, ⑦疎植半肥区, ⑧疎植標肥区, ⑨疎植倍肥区

施肥量(kg/a)：標肥はN0.8, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 1.2, K<sub>2</sub>O 1.0, 半肥は標肥の1/2, 倍肥は2倍施用, この他追肥N0.3, 堆肥150は各区共通。

栽植密度：標植は70cm×22cm, アール当り 649.4株, 密植は70cm×15cm, アール当り 952.4株, 疎植は70cm×30cm, アール当り 476.2株。

## 3 試 験 結 果

## 1 マルチ栽培用適品種の選定試験

マルチ栽培下における各品種の特性および収量を検討した結果は表1のとおりである。

初期生育をみると萌芽, 着蕾はワセシロがメークイン, 男しゃくより1~2日早く, また開花も2~5日早い。総いも重ではワセシロが男しゃくに比べて32%, メークインに対して20%の多収を示した。また大いも重においてもワセシロが135kgで男しゃくの53kg, メークインの59kgに対して高い値を示した。以上のことから, ワセシロは早期肥大性にすぐれ, 早掘栽培用品種として有望と思われた。

いも重とも催芽マルチ区が多収となった。またマルチ区と無マルチ区の比較でもマルチ区が多収を示し, いもの肥大に及ぼすマルチ効果が認められた。また催芽マルチ区とマルチ区を比較すると, 上いも重, 大いも

重とも催芽マルチ区が勝った。地上部の生育はマルチ区が旺盛であったが、茎葉が過繁茂気味となって一般に低収であった。同様に催芽区と無マルチ区を比べても催芽区が多収で無マルチ区は徒長気味で低収であった。以上のことから催芽処理によって初期生育が促進されると、いもの肥大が早期から開始され、地上部の生育は適度に抑制されるものと思われる。品種別にみると、各品種とも催芽マルチ区が上いも重、大いも重ともに多収を示したが、催芽区とマルチ区を比較してみると、いもの肥大に及ぼす催芽処理とマルチ処理の効果は、ワセシロではマルチの方が高く、メークイン、男しゃくでは催芽の方がやや高いと思われる。

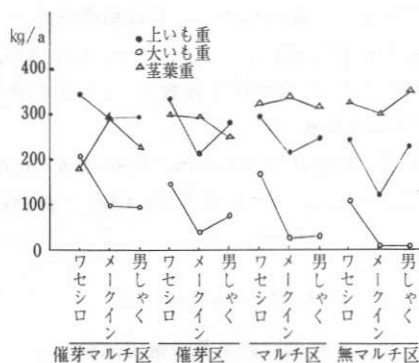


図1 7月11日における生育と収量(昭52年)

3 ワセシロの栽植密度、施肥量に関する試験  
早掘栽培用として有望なワセシロの多収栽培法を栽植密度、施肥量の面から検討した結果を図2に示す。

#### (1) 栽植密度

地上部の生育は密植区が旺盛で収量也多かったが、大いも重では標植区が多収であった。疎植区における地上部の生育は半肥、標肥条件で劣り、また倍肥条件では徒長気味となって低収であった。以上の結果から密植すると多収となるが、いもの肥大を考えると、う

ね幅70cmで株間22cmの標準密度が適当と考えられる。

#### (2) 施肥量

地上部の生育は倍肥区が旺盛で、半肥区では劣った。上いも重では密植条件での多肥効果により多収となった。また大いも重では、密植、標植、疎植、いずれの条件においても倍肥区が多収となった。このことから施肥量としては標準施肥量よりやや多目が適当と考えられる。

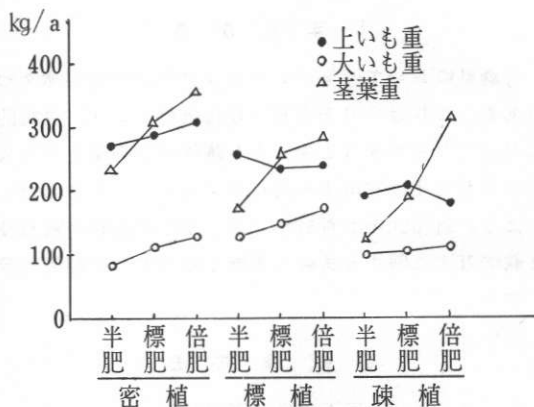


図2 ワセシロの生育(7月9日)と収量(7月21日)(52年)

## 4 ま と め

1 バレイショ早掘栽培用の適品種としてワセシロが有望と思われた。

2 催芽処理による初期生育の促進と、マルチによる地温上昇効果によって、いもの肥大が早まり、催芽マルチ栽培が最も多収を示した。

3 ワセシロの適正な栽植密度は、うね幅70cmで株間22cm、アール当り649.4株植えがよく、施肥量は標準施肥量(N0.8(基肥)+0.3(追肥), P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 1.2, K<sub>2</sub>O 1.0)よりやや多目に施用するとよいように思われた。